



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3071 号 2016.6.10 発行

「立佞ぶた井」新名物に チャーシュー自慢 北海道新聞 2016年6月10日
自家製チャーシューが盛りつけられた高さ23センチの「立佞ぶた井」



五所川原市の生鮮市場「マルコーセンター」内で営業するラーメン店「麺屋はばたけ」は10日から、五所川原立佞武多（たちねぶた）にちなんだ自家製チャーシューを高さ約23センチに盛りつけた「立佞（たちね）ぶた井」を販売する。関係者は「五所川原の新名物にしたい」と意気込んでいる。

麺屋はばたけは、鶴田町で障害者就労支援施設を運営する社会福祉法人「共生会」の施設の通所者がスタッフを務める。共生会の理事長で、中華料理店など7店舗を展開する有限会社「幡龍」の社長を務める三上昇生さんが井を発案した。

立佞ぶた井は高さ約23メートルの五所川原立佞武多にちなんで高さ約23センチ。じっくり低温で蒸し焼きした特製のとろとろチャーシューを、豪快に盛りつけ、

約1キロを越す重さ。大根おろしとタマネギのさっぱりとしたソースがかけられ、途中で味付けを変えられるように別添えでコチュジャンとタルタルソースが付く。

開発スタッフの藤元譲さん（31）は「2人で分けてもおなかいっぱいになるかも。市場内で買った刺し身を載せて食べる『のへ井』と合わせて新たな名物にしたい」と話した。

立佞ぶた井は大（高さ23センチ）が2300円、中（同15センチ）が1500円、小（同7センチ）が700円。1日限定5食提供する。

知的障害者絵画デジタル保存 京都・亀岡、1万8千点を体系化



京都新聞 2016年6月8日
データベース化した作品の一覧画像=写真左。収蔵庫で作品を確認する職員

京都府亀岡市北町のみずのき美術館が、知的障害者の絵画作品をデジタルアーカイブ化するプロジェクトに乗り出した。大量の作品をデジタル処理して体系化する取り組みは全国的にも珍しい。近年、専門的な美術教育を受けていない人たちによる「アール・ブリュット」（生の芸術）の評価が高まっているため、ほかの施設でも使える汎用（は

んよう）的な手法の確立を目指す。

■「価値発信へ、手法を共有」

アーカイブ化するのには、同市河原林町の障害者支援施設みずのきの絵画教室で、利用者が描いた油彩や水彩、木炭画など。1964年の教室開始後の保管点数は約1万8千点に上る。60年代に始まった障害者施設の絵画教室は国内では数少なく、当初、アール・ブリュットの先駆けとして滋賀県の施設とともに注目を集めたという。

プロジェクトは、大量の作品を適切に管理することが難しくなる中で芸術的な価値を発信するため、みずのき美術館の職員が2012年の開館時から検討していた。日本財団の助成金500万円を活用し、本年度から本格的に着手した。

作品を画像処理する作業から順次進めている。職員が1点ずつ目視し、作者や制作年月日、技法、画材、作者の出展履歴などのデータを蓄積している。当時の心理状況などを知る手掛かりとして作品裏面などにある書き込みも記録するという。今秋にも美術館の端末で画像の公開を始める。

障害者作品の取り扱いをめぐるのは、滋賀県のNPO法人が全国の優れた個別作品をサイトで紹介しているほか、知的障害児施設の近江学園（湖南市）が画像として保存するなど動きが広がっている。だが、特定の施設が保管する大量の作品に詳しい情報を加えて体系化するアーカイブは、人員や資金面の課題などから進んでいないという。

障害者の芸術活動に詳しいみずのき美術館の奥山理子さん（29）は「障害者施設での試みは全国で初めてではないか。作品の取り扱いに困っている施設が多いため、手法や意義、成果を共有したい」と話す。

みずのき美術館では、作業中に発掘した作品の企画展を26日まで開いている。

障害者の高齢化に対応するグループホームが完成（東京）



福祉新聞 2016年06月10日 編集部
手すりや浴槽がスライドする風呂場 片まひの人でも入りやすい作りにした

障害者が高齢になっても暮らし続けられるよう装備したグループホーム（GH）「イタル上荻」（東京都杉並区）が今年2月に完成した。老朽化により建て替えたもので、トイレや風呂のバリアフリー化を進めた。運営する社会福祉法人いたるセンターは、都内で同様のGHづくりを進めている。

イタル上荻は3階建てのビルで、入居者は平均年齢48歳、最高齢は76歳。脳性まひの人、40年超精神科病院に入院した人など知的障害や精神障害のある男女13人が暮らす。日中は作業所などで働く人が多いが、中にはデイサービスに通う人もいる。

イタル上荻の外観

「65歳を超えて特別養護老人ホームに移ろうとしてもまず受け入れてもらえない」。

管理者の八巻利子さんはこう話す。そのため、最期までGHで暮らせるようエレベーターを設け、風呂は片まひの人に対応するため浴槽や手すりをスライド式にするなど設備は手を尽くした。

心配の種は人材だ。「医療の必要な人が出てきたら看護師が必要だが、その確保は難しい。今のGHの収入では十分に人件費を出せない」と明かす。

「軽度」とされる人への心配も尽きない。



5月25日に成立した改正障害者総合支援法は、障害程度の軽い人の一人暮らしを定期訪問で支える新サービス「自立生活援助」を創設。その代わりに、GHは重度者に特化したものになる見込みだ。

八巻さんは「軽度の人には重度・高齢の人とは別の意味で手がかかる。新サービスを設けても一人暮らしを安定させるのは容易ではない」とみる。

この点は国会審議でも論点となり、日本グループホーム学会は与野党に意見提出した。

同学会の光増昌久代表は「GHを重度の人向けにしていくことには賛成」としつつ、「これからGHの利用を希望する『障害支援区分非該当、支援区分1』の人が利用できなくなる懸念がある。住まいの場は支援区分で制限するのではなく、本人の意向を尊重すべきだ」とコメントしている。

子ども食堂開設に補助 兵庫県ふるさと納税募る 神戸新聞 2016年6月10日



子どもに食事を手渡すスタッフ=西宮市内(兵庫県提供)

兵庫県は、貧困や一人親家庭などの子どもに安価な食事を提供する「子ども食堂」の立ち上げ費用を補助する。県のふるさと納税「ふるさとひょうご寄付金」を財源に活用。ご飯が十分に食べられない子を支援するため、寄付を募っている。

子ども食堂は近年、各地で設立が進み、県生活支援課によると、尼崎、神戸、西宮各市などに少なくとも10カ所ある。食事だけでなく、同じ境遇の子やボランティアとの交流

などを通し、子どもの心のよりどころとなるケースもあるという。

NPO法人や社会福祉法人、ボランティアグループなどが設立主体で、県は冷蔵庫や食器の購入費用など、1団体当たり最大20万円を補助する。

ふるさと納税は、寄付すれば、2千円の自己負担を除いた金額が所得税や住民税から軽減される。県は使い道をあらかじめ決めて募っており、本年度から子ども食堂の応援を項目に加えた。県生活支援課TEL078・362・3183(斉藤正志)

1年で保育士30人退職 私立保育園に市、県が立ち入り 太宰府 [福岡県]

西日本新聞 2016年06月10日

太宰府市は9日、市内の私立認可保育園を県とともに立ち入り調査し、時間外命令簿の不備などが確認されたとして運営を改善するよう口頭で指導したことを明らかにした。同園では昨年度、計30人の保育士が退職しており、市は「異常な事態。適切な運営に改善されたか、確認を継続していく」としている。

市によると、昨年12月に同園の保育士から「休みが取れない」「パワハラがある」などの訴えが市にあった。市は県と今年3月、園に立ち入り調査を実施。時間外命令簿の記入がずさんだったほか、研修旅費の未払いや運営規程の未整備などが確認された。

同園では昨年度、正規13人、臨時12人、派遣5人の保育士計30人が退職している。同園理事長兼園長の女性は市の調査に「(保育士らに)声を荒らげることがあった」と認めているという。退職時期はずれており、乳幼児1人あたりの保育士数を定めた基準を下回った時期はなく、現在は21人が勤務している。

同園の運営をめぐるのはこの日の市議会本会議で、保護者らが市に「積極的指導」を求める請願が上程された。

「どこにも行かないで」震災、障害児の心に傷 壁に体当たりし頭血だらけ、お漏らし…
異変相次ぐ 西日本新聞 2016年6月9日

地震後、不登校になった優衣（奥）と祐一。「車の中でないと食欲もわからない」という＝5月29日、熊本市

突然裸になり、お漏らしをする男子中学生、気絶する小学生。一方で、高揚したようにしゃべり続ける子もいた。「もともと情緒面に課題がある子どもたちが地震の恐怖にさらされた。心の傷は深刻だ」と、宮本裕美施設長（52）は語る。

全国から臨床心理士、精神科医ら約30人の専門家が施設に入り、心のケアに当たった。1週間ほどたつと子どもたちは表面上は落ち着きを取り戻した。

ただ、東日本大震災では数カ月後に心的外傷後ストレス障害（PTSD）などの症状が現れるケースもあったという。宮本施設長は「震度7に2回遭うという未曾有の経験をした子どもたちに、いつ、どんな症状が出るのか誰も分からない」と懸念する。

地震後、校舎に入れず不登校に

熊本市に住む大石恵子（43）は中1の長女優衣（12）、小3の長男祐一（8）＝いずれも仮名＝が、ともに発達障害を抱えている。

前震の時、3人で寝ていると寝室の家具が次々に倒れてきた。けがはなかったが、2階建ての自宅は外壁の一部が崩れ、その日から近くの公園の駐車場で車中泊を始めた。

中学校に入学したばかりの優衣は「卓球部に入りたい」と、学校再開を楽しみにしていた。だが、再開した学校で亀裂が入った廊下の壁を見ると怖くなって学校に通えなくなった。祐一も建物を怖がり、一度も学校に行くことなく不登校になった。

自宅も、子どもたちが滞在できるのは1日3時間が限界。大半は車の中で過ごす。子どもたちは夜は怖がって眠れず、昼に寝る昼夜逆転の生活。優衣は「なぜかイライラする」と精神安定薬を飲み始めた。きょうだいげんかも絶えない。

7年前に離婚した恵子は、パートで月給5万円の介護の仕事をしてきたが、子どもたちの異変で仕事に行けなくなり、今は無収入。

5月下旬、恵子は「学校の花壇を見に行こう」と祐一を誘った。祐一は校庭までは入ったが、やはり校舎には入れなかった。スクールカウンセラーからは「慌てても逆効果。少しずつ寝る時間を戻していきましょう」と助言を受けた。

「子どもの気持ちを大切にしたい」。そう思うが、社会福祉協議会から借りた10万円で何とか食いつなぐこの生活を続けるのは難しい。「早く学校に行ってくれば助かる」。子を思う気持ちと厳しい現実の間で悩むが、答えは出ない。



社説：池田小15年 子どもを見守る社会に

朝日新聞 2016年6月10日

児童8人が死亡、教員を含む15人が重軽傷を負った大阪教育大付属池田小学校（大阪府池田市）の児童殺傷事件から、15年がたった。

包丁を持った男が学校に侵入した無差別殺傷事件は、学校の危機管理を根本的に見直すよう迫った。事件後、各学校で対策がとられたが、子どもを狙う事件は後を絶たない。事件の教訓を改めて考える必要がある。

この15年で確実に進んだのは、学校の防犯対策だ。

文部科学省の13年度の調査によると、防犯カメラをとりつけるなど不審者の侵入防止措置をとった学校は97%にのぼる。

警備強化で安全が向上した面はある。だが、外の世界との遮断だけで問題は解決しない。

施設内にボランティアの住民に入ってもらい、不審者が入りにくい環境を整えようとする学校もある。地域のコミュニティーで子どもを見守る試みだ。

不審者が一番恐れるのは周囲の大人の目ともいう。学校の立地や教職員の数など、個別事情もあるだろうが、こうした試みの成果にも期待したい。

警察庁によると、14年は13歳未満の子どもの連れ去り（略取・誘拐等）が全国で109件発生した。04年の141件から減っていたが、08年（63件）を境に増加する傾向に転じた。

警察官を装って呼びかけるなど、手口の巧妙化が目立つ。

子どもへの安全教育でも、地域の協力が欠かせない。

付属池田小では事件後、身の回りの危険などについて学ぶ安全科の授業を全学年でとり入れた。緊急時に逃げ込む「こども110番の家」の位置を調べ、登下校時の安全も学ぶ。

「おなか痛いので荷物を持ってくれる？」

たとえばこう頼まれたら、1人で対処せず、大人を呼んで手伝ってもらおうよう教える。

「危険を強調するだけでなく、子どもと地域が協力して安全対策を進めることで、大人や地域への信頼を育む」

事件後に付属池田小の校長を4年務めた藤田大輔・大阪教育大教授（学校安全）は言う。

他校にも参考になろう。

文科省は3月、学校事故対応に関する指針をつくった。救命措置を最優先することや保護者への継続的な支援などで、付属池田小事件の遺族の意見も反映された。指針を生かすには、学校現場でふだんから理解を深める努力が欠かせない。

犠牲者が生きていれば、社会人として巣立つ年齢だ。犯罪史に残る凶悪事件を、決して忘れるわけにはいかない。

【主張】日本の社会保障 一体改革の再構築急げ 各党は制度安定に責任を持って

産経新聞 2016年6月9日

安倍晋三政権は、脱デフレを確実にするという現実的判断から、消費税増税の再延期を決めた。

同時に生じたのは、社会保障・税一体改革の枠組みが崩れたという実態である。それに代わる道筋は示されていない。

消費税による安定財源で将来世代の負担を減らそう。それが一体改革の理念だった。そこを見失えば、これから本番を迎える高齢社会を乗り切るのは難しい。

参院選後、増税を再延期した期間に、一体改革をどう再構築するか。とりわけ3党合意の当事者である自民、公明、民主（現民進）は現状を厳しく認識すべきだ。

《3党合意の理念崩れた》

そもそも、持続可能な社会保障の構築は消費税率10%で完結するものでもない。その先も見据えた具体的な改革像を示すことができるかが問われ続けてきた。

10%への引き上げは、民主党政権下の平成24年に自公両党との合意で決まったものだ。社会保障の安定財源確保を急ぐべきだという危機感を共有できたともいえる。

安定財源として消費税が期待されるのは、税収が景気に左右されにくく、サービスや給付を受ける高齢者にも負担を求めることができるからだ。

増税による社会保障の具体的な使い道を決めたのは、この問題を「政争の具」としない政治的な創意工夫だった。その意義は2回の先送りでも変わるまい。

問題は、再延期後の一体改革の道筋をどう担保していくかが不明確なままになっている点だ。

首相は再延期により、社会保障の充実策をすべて実施するのは難しいとの認識を示した。どの分野が後回しになるのか。

1億総活躍プランに入った保育や介護の受け皿確保など、有権者受けしやすい「歳出増」の項目は、よく聞こえてくる。

それでいて、財政健全化目標も堅持するという。都合のいい説明だが、現実には「アベノミクスの果実を充てる」という漠たる発言があるだけで、代替財源は示されていない。景気の影響を受けやすい税目の増減を気にしながら、持続的な社会保障制度を組み立てていくことはできない。

一方、民主党時代に「決める政治」に踏み切った民進党も、その理念を投げ捨てた点では五十歩百歩といえよう。

岡田克也代表は党首討論で、首相の機先を制すように増税再延期に言及した。参院選で争点化することを念頭に置き、「アベノミクスの失敗」として攻撃できると踏んだのだろう。

消費税そのものに反対する共産党と参院選で統一候補を出そうとしているが、そうした勢力に一体改革を再構築する議論を期待することなどできない。

《10%後見据え議論せよ》

岡田氏は当面の社会保障の拡充策を実現するため、財源不足は赤字国債での穴埋めを提案した。借金による将来世代へのつけ回しを避けるという、一体改革の根幹と正反対の考えではないか。

どの党が政権を担っても、社会保障費の抑制に取り組まざるを得ない。国民との長期契約ともいえる社会保障政策に、継続性を持たせる。それが3党合意のもう一つの意味合いでもあった。理念を台無しにしているという認識が、3党にはあまりにも希薄である。

安倍首相は1日の会見で「社会保障を次世代に引き渡していく責任を果たす」と、31年10月の引き上げを確約した。だが、高い内閣支持率を得る現状でさえ困難な増税の判断を、2年半後に行う約束になっているだろうか。

再延期の言い訳ではなく、社会保障制度の改革を継続し、制度の維持に努めることを具体的に語らなければ、国民の将来への不安は解消できない。もっとも懸念すべきは、税制そのものへの信頼も損なわれることである。

一体改革とは別に、高齢者向けの臨時給付金など社会保障の拡充策が決められ、有識者会議の乱立、複数の担当閣僚を置いたための混乱も否めない。

政策強化につながらず、政策決定の不透明さを増す手法であれば、首相は見直しをためらうべきではあるまい。

高齢者数がピークを迎える2040年代初頭をにらんだ長期的な視点を持ち、「消費税率10%」の段階にとどまらず、その後の負担と給付のあり方まで展望する。それが国民の安心に欠かせない。

「げんこつやまのたぬきさん」 作曲家の小森昭宏さん死去

NHK ニュース 2016年6月9日

童謡の「げんこつやまのたぬきさん」などで知られる作曲家の小森昭宏さんが、今日5日、腎不全のため東京都内の病院で亡くなりました。85歳でした。小森さんは東京都出身で、作曲家として「げんこつやまのたぬきさん」や「おべんとうばこのうた」、「いとまきのうた」など親しみやすいメロディーの童謡を数多く手がけました。このほか、テレビ番組の主題歌やクラシックも手がけるなど幅広く活動し、東京フィルハーモニー交響楽団の理事も務めました。親族によりますと、小森さんは体調を崩して都内の病院で治療を受けていましたが、今日5日の夜、腎不全のため亡くなったということです。

「認知症リスク」のチェックリスト

1	現在、あなたは75歳以上ですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	現在、収入のある仕事をしていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	現在、糖尿病と診断されていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	物忘れの自覚はありますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	今の生活に満足していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	生きていても仕方がないという気持ちになることがありますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	毎日の活動力や世間に対する関心がなくなってきたように思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	生きているのがむなしいと感じますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	退屈に思うことがよくありますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	普段は気分が良いですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	何か悪いことが起こりそうな気がしますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	自分は幸せな方だと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	どうしようもないと思うことがよくありますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	外出するより家にいる方が好きですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	他人より物忘れが多いと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	こうして生きていることは素晴らしいと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	自分は活力が満ちていると感じますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	こんな暮らしては希望がないと感じますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	他人は自分より裕福だと思いませんか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	スポーツ的活動へ参加していますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	バス・電車を利用して外出することはできますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	食事の用意をすることはできますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	請求書の支払いをすることはできますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	年金の書類を作成することはできますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	新聞を読んでいますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	病人を見舞うことはできますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

左の15問の小計が5点以上ですか

はい いいえ

枠は3点、 枠は1点として合算する

合計 点

5年後、あなたが認知症になる確率は。星城大（愛知県東海市）の竹田徳則教授（61）ら高齢者の介護予防、認知症予防に取り組む研究チームが、認知症のリスクを誰でも簡単に知ることができるチェックリストを開発した。質問の答えから計算できる点数が高いほど、危険性が高まるという。逆に、1点でも下げる努力をすれば予防効果は大きくなる。（白鳥龍也）

質問では、75歳以上かどうかをはじめ、心身の健康状態や生活習慣を尋ねる。基本は13問。5問目は、うつ傾向の有無をより詳しく判定するため15の問いを設置した。

配点は第1問は3点か0点。第2～4問と、第6～13問は1点か0点。第5問は、小計が5点以上だと1点として計算し、全問を合計すると最高15点になる。

0点から2点の人は、5年の間に認知症を発症する割合は2%以下。以降、5点だと約8%、8点は約27%と加速度的にリスクが高まり、9点以上では約44%に達すると見込まれる。

一方、9点の人は「新聞を読む」「スポーツ的な活動に参加」といった未達成の項目を一つ改善するだけで、2割近くリスクが減ることになる。



リスク予測の根拠になったのは、社会福祉や公衆衛生など多分野の研究者が共同で取り組む「日本老年学的評価研究」の一環で、2003年から08年まで愛知県内6自治体に住む高齢者を対象に行った追跡調査。開始時点で65歳以上で自立した生活をしている6796人について、心身の状態や生活機能を項目に分けて調査し、5年間の健康状態を追った。

その間に認知症を発症したのは366人。分析を続けるところ、今回のリストに掲げた13項目の回答結果と認知症発症との因果関係が強いことが分かり、点数ごとの発症割合の計算にこぎつけた。

研究チームによると、高血圧や糖尿病などの病気をはじめ、個別の生活習慣や運動機能と認知症との関係の報告はあるが、大掛かりな追跡調査により、危険要因の累積点で発症リスクを明らかにしたのは国内で初めて。

竹田教授は「チェックリストには、個人の取り組みや周囲の協力で変えられる項目が多く含まれている。高齢者本人が認知症リスクを自覚し、予防のための行動を起こすきっかけとして活用してもらおうといい」と話している。

ネット依存の小中学生…スマホ断ち、キャンプで生活習慣改善

読売新聞 2016年6月10日

「ネット依存対策キャンプ」のある一日(予定)

午前6時	起床
7時	朝のつどい
7時半	朝食
8時半	医師による 認知行動療法
9時半	ネットとの関わりについて学習
11時	体験活動・昼食
午後2時	オリエンテーリング
4時	カウンセリング
6時	夕食
7時	入浴
7時半	認知行動療法
8時	個人の時間 (洗濯など)
9時	日誌記入
9時半	整理整頓、 1日のまとめなど
10時	消灯
10時半	就寝

スマートフォンの普及に伴い、全国的に子どものネット依存が問題視されるなか、小中学生の学力全国トップクラスの秋田県が、対策に乗り出す。

ネットに依存しているとみられる県内の小中学生約10人を1週間、キャンプに連れ出し、ネットから遮断して生活習慣の改善を図る。全国でも珍しい取り組みで、県教育委員会は「早めに対策を取ることで、依存拡大を防ぎたい」と期待している。

県教委では、小中学生のネット依存について調査していないため、具体的な人数は把握していない。しかし、今回の対策実施を前に協力を打診した県医師会の説明では、少なくとも10人前後が、昼夜の生活が逆転したり、スマホをさわっていないと落ち着かなかったりするなどの症状に陥り、医師に相談に来ているという。全国的にみれば人数はまだ少ないとみられるが、県教委は「予備軍はさらにいる可能性もある」として、対策の実施を決めた。

キャンプは、8月に由利本荘市の岩城少年自然の家で1週間実施する。毎日朝と晩に、小児科医の指導の下で

「認知行動療法」を受けて自分の生活を見つめ直すほか、ネットとの正しい関わり方を学んだり、カウンセリングを受けたりする。期間中は、一切ネットは使えない。12月には、経過観察のためのキャンプも行う予定だ。

背景には、ネット依存が、全国トップクラスを維持している子どもの学力に悪影響を及ぼすとの懸念がある。県教委が昨年10月に、小学4年から中学3年の全員を対象に行った調査では、自分専用のスマホやタブレット端末を持っている児童生徒の割合は82・4%と、2013年の調査から10・7ポイント増加。そのうち、ゲームや通信アプリを1日2時間以上使う子どもの割合も6・9%と前年から増えている。

県教委によると、ネットを2時間以上見る子どもは、睡眠時間を削る傾向があるという。「高い学力を支えるのは、健康的な生活だ。キャンプがそれを取り戻すきっかけになれば」と話している。

◆ネット依存 オンラインゲームや無料通話アプリなどに夢中になり、睡眠や食事が不規則で、学校にも通えないなど日常生活への支障がある状態。2013年に厚生労働省研究班が発表した調査結果では、ネットへの依存が強いとみられる中高生は推計約51万8000人になる。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行